

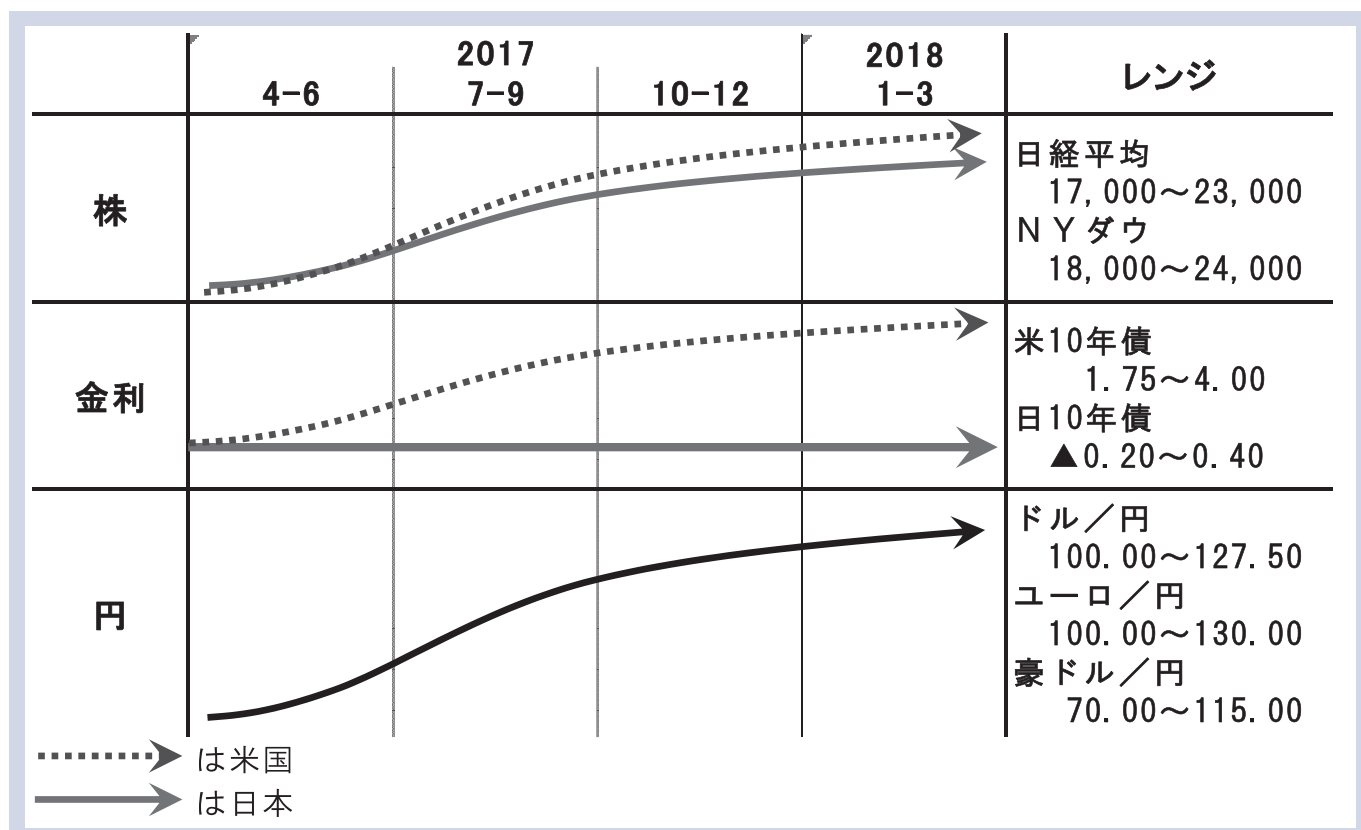
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(3月7日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	輸出の持ち直しや在庫調整の進展等を背景に景気は持ち直している。先行きも、輸出増加が続くことに加え、企業収益の改善から設備投資が増加することや、経済対策の効果が発現することで景気が押し上げられるだろう。17年の景気は回復感を徐々に強めていく可能性が高い。
② 米国	米国経済は、急激なドル高等の影響を受けながらも、雇用・所得の増加、資産残高の増加等を背景とした個人消費の拡大や住宅市場の回復の持続によって、景気拡大が継続する公算が大きい。また、年半ばごろには景況感の改善や企業収益の拡大を受けた設備投資の増加を背景に、経済成長は緩やかに加速すると見込まれる。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、①金融緩和の効果浸透、②雇用・所得環境の持ち直し、③過度な財政緊縮姿勢の後退を背景に、回復基調が続く公算が大きい。但し、原油高による家計や企業のコスト負担増加もあり、景気の拡大ペースはやや鈍化しよう。米トランプ政権の通貨・通商政策を巡る不透明感もあるが、米国を始めとした世界景気の回復持続とユーロ安基調が相俟って、輸出の拡大基調は損なわれないものと判断している。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の底入れを反映して外需に回復感が出ている。他方、米トランプ政権による政策運営の不透明感は新興国にとって資金流出圧力となる懸念があり、通貨安などの副作用が警戒される。先行きも外部環境に揺さぶられ易い環境が続くとみられ、引き続き要警戒の状況にあるものの、金融市場の落ち着いた展開が続くことになれば、比較的堅調な景気拡大を実現することは可能と見込まれる。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。